

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告書

大阪市立デザイン教育研究所

1 総括についての評価

デ研では自分の興味・関心に即した学習ができていると子どもから聞いている。今回、デ研展の展示を見させていただいて、子どもの満足度がうかがえるので、学校の評価はもう少し高くてもよいのではないと思う。実学に重きを置き企業と連携した多数のプロジェクトに取り組んでいる点が評価できる。2年間という短い期間で行う進路指導は難しいと思うが、キャリアに関する科目が導入された点は評価できる。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○修業年限2年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に付けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインしていけるように取り組んでいく。

○今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。

進路支援部を創設し、後援会の援助で就職エージェントとの連携も図っている。科目「キャリアデザイン」を新設し、学生の就職意識の醸成を早期から取り組むようにした結果、きめ細かな指導、支援が推進されていることが学校アンケートからわかった。
水防事務組合連合会と連携したプロジェクトに取り組んだ結果、平素の防災・減災意識を育むことにつながったこともアンケートからうかがえた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○教室における講義中心の知識偏重型授業だけでなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけでなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。

○学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。

企業や団体からポスターやリーフレットだけでなく、リアルなプロジェクトの依頼に応えることで、実践力が身につく、好評価を得ていることで学生が自信を持っている様子がうかがえる。
年度の初めから課題研究の充実を図り指導したことで、興味深い発表がデ研展や発表会で行なえていることがわかった。前年度に比べカリキュラム全体が精査され、土曜日の授業も削減されて学生に余裕ができてきていることを家庭でも実感している。
社会の情勢にも合わせ、地元企業と連携しながら社会のニーズに対応したデジタル系の科目を新設することを期待している。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけでなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるような広報活動に取り組む。

○学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者からの要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。

前年度の課題から入学者増加に向けての取り組みを強化した結果、志願者数は増加したものの定員に達しなかったため、次年度以降さらなる対策が必要だと考える。たとえばメディアへの露出を強化すれば良いと思う。あるいは現役学生と一緒に出身校を訪問し、近況報告をすると良いと思う。
施設面としては各教室に大型モニターの設置、3Dプリンターや陶芸窯の導入、トイレの洋式化を進めるなど改善できたことがわかった。

3 今後の学校運営についての意見

デザイン教育研究所をさらに知ってもらうために、オンラインも活用しながら現役学生と一緒に出身校に近況報告をしたり、高校との連携授業を今後も継続していくと良いと思う。また、万博をうまく活用すると良いと思う。来年度は是非とも志願者が定員を超えることを願っている。